

国民学校芸能科音楽の歌唱教材にみる国民形成の一側面
戦時下における教科横断的テーマの検討

今 川 恭 子
村 井 沙千子

National Character Building through the Song Teaching Materials of National Schools (*Kokumin Gakko*) in Japan: A Study on the Interdisciplinary Curriculum during World War II—————

Japanese national schools (*Kokumin Gakko*: 1941–1947) aimed to instill a patriotic spirit in schoolchildren. Further, through music education, the school curriculum sought to cultivate national sentiment. This article focuses on the song teaching materials, connected with *Kokuminka* (Japanese, moral training, and Japanese history), in order to examine the characteristics of the national educational system that aimed to develop the national character.

はじめに

昭和 16 (1941) 年 3 月 1 日に「国民学校令」が發布 (同年 4 月 1 日施行) され、昭和 22 (1947) 年 4 月 1 日の学校教育法施行までの 6 年間、日本の満 6 歳からの初等教育を担う学校はすべて国民学校となった¹⁾。「国民学校令」冒頭に「国民学校ハ皇国ノ道ニ則リテ初等普通教育ヲ施シ国民ノ基礎的鍊成ヲ為スヲ以テ目的トス」と謳われたとおり、国民学校の目的は学校教育を「皇国の道に則った国民の鍊成」に全面的に向かわせることであった。

国家的な目標のもと、国民学校令によって教育制度、教育内容、教育方法にわたる大改革が行われた。改革のひとつは教科の再編であり²⁾、音楽に関しては「芸能科ハ之ヲ分チテ音楽、習字、図画及工作ノ科目」と定められ、それまでの「唱歌」から「芸能科音楽」へ、すなわち従来の歌唱のみの内容を示す名称から鑑賞や器楽も含めた総合的な名称になったのである。唱歌から音楽への転換にともなって児童の学習内容の拡大と多様化が図られたことは、学校音楽教育にとって大きな改革であった。この点から、国民学校期は戦後の音楽科教育に繋がる基盤形成期とも見られている。だがこうした歴史的な位置づけにもかかわらず、国民学校期の音楽教育について「明治・大正時代の唱歌教育研究の蓄積に比べ、研究の絶対量が不足していることは否めない」(本多, 1999a, p. 296)と指摘された状況は現在も続く。芸能科音楽においては音楽教育が自律的目的のもとでそれ自体の充実を図った一方、国家主義の極端な介入が教育内容に歪曲や矛盾をもたらしたことは否めず³⁾、結果的にこの時代の音楽教育への評価は困難になったといつてよい。

このような中で本多ほか (1999b, 2004, 2010)、今川ほか (2002) をはじ

めとする当時の音楽教育実践に関する実証的研究は、国民学校における音楽教育の複雑な諸相をひとつずつ明らかにしはじめるとともに、制度だけでなく教師・子ども・教育内容と教材それぞれの観点からのさらなる精査の必要性も浮かび上がらせている⁴⁾。本稿はこの精査の仕事のひとつとして芸能科音楽における国定教科書掲載歌唱教材に焦点を当て、そこに意図された学習主題およびその意図の実現方略について検討を深めたい。はじめに歌唱教材に意図された学習主題の性格を明確にするために、明治期以来歌唱教育が担ってきた国民意識形成という社会的機能について触れ、さらにこの機能を果たす上で唱歌が他教科と関連づけられてきた歴史について先行研究を基に述べる。こうした史的背景を踏まえ、国民学校期の歌唱教材に意図された主題を、とくに戦時下において国家が求めた国民形成にかかわっての思想という観点から具体的に検討していきたい。他教科との関連という方略の中で教師から子どもにどのように学習主題が伝えられようとしていたのか。これを分析することを通して、カリキュラム全体の中に多層的且つ密に意図された意味の総体を明らかにしていきたいと考える。太平洋戦争下という社会状況の中、教材を介した教師と子どもとのかわり合いが個々人の内面と社会を繋いで一定の意味生成を実現していたとするならば、その生成過程の解明は今日の教育実践にたいする示唆にも繋がるだろう。

1. 唱歌教育と国民形成

日本において国家の求める国民形成と音楽教育との関係は、国民学校期に始まったことではない。近代学校教育制度の開始と同時に唱歌教育が始まって以来、日本の音楽教育（導入期においては唱歌教育）が国家の成員たる国民意識の形成という社会的機能を担ってきたことは多くが指摘するところである。奥中（2008）は「受動的にただ支配されるだけでなく、能動的に参加をすることを期待されている『国民』概念は、極めて近代的な

ものである。私たちがよく知っている近代的な意味での『国民』は、明治期までは存在せず、全く新しい言葉として受けとめられていた。明治における教育とは、このような状況における教育である。教育の目的とは、基本的にはまず『国民化』を意味していた」(p. 204) と言い、学校教育が一人一人に日本国民としてのアイデンティティを注入するなかで唱歌教育がまず徳育という目的を担ったことを指摘して「ナショナル・アイデンティティの創出が必要とされる状況において、教育の基本方針が国家教育論的な思想によって規定されているのであれば、この徳育のための唱歌という理解は当然の帰結であろう」(奥中, 2008, p. 210) と述べる。他にも「明治政府による西洋音楽導入の根柢にあったのが、まずは『国民づくり』のためのツールという位置づけであって、芸術というような概念が全く眼中になかった」(渡辺, 2010, p. 41), 「音楽科が・・・(中略)・・・国民統合装置としての学校のなかに存在しているということは、その音楽学的に評価される価値とは別に、音楽行動の実践を通して、潜在的、間接的な形で国民統合の機能を果たしていると考えうるのである」(西島, 1995, p. 177) などといった言説に代表されるように、明治期以来の唱歌教育のもつ社会的機能は、国民意識の形成という国家レベルの目的によって規定されてきた一面をもつのである。

唱歌教育におけるこの国民形成機能の様相については、近年の研究だけでも前述の文献のほか山東(2008)らが主に歌詞内容を通じた思想・概念の伝達に注目して明らかにしている。近代国家の国民として求められる道徳的な内容や愛国心を喚起する内容、国民が持つべき地理や歴史上の知識が明治期以来唱歌の歌詞として採用されていることは、周知のとおりである。

こうした歌詞を通じた国民形成は昭和期にも受け継がれていくわけであるが、これをめぐって河口(1991)は、昭和7年に刊行された『新訂尋常小学唱歌』⁵⁾を經由して国民学校期に至り国家主義の一層の強まりへと転換したと見る。そして「この転換に補完的な役割を果たすべく提唱された

のが『郷土教育』の方法原理に基づく唱歌教授」であり、「地域の一体化を求めて地域の歴史と地理・行事等に関連した事柄を題材にとりあげて唱歌として教材化する」(河口, 1991)という方略が、芸能科音楽において明確に愛国心育成に向けて採られたとするのである。地理や歴史上の知識を単に歌詞にして覚えるというだけのことでなく、身近な出来事や地域から国家へという道筋が生活や文化に密着しながら意図的に描かれるようになった、と見ることができるのではないだろうか。

身近な生活や文化や自然、地理・行事等や歴史に関連する主題が重層的に積み重ねられて愛国心育成の目的に向けた教材配列がなされていたとするならば、国民科の教科目(修身・国語・国史・地理)と関連するこうした題材とそこに込められた思想の伝達は、どのような構造をもって達成されようとしていたのか。次節において国民科の教科目との関連性という点から検証していきたい。

2. 芸能科音楽と国民科の連携

『教師用指導書』(以下、『指導書』)から見えてくる教科間連携の全体像を明らかにするために、1年生から6年生までの教科書(ウタノホン上～初等科音楽四)収録歌唱教材を、関連する国民科教科目の教材と照らし合わせて【表1】を作成した。イタリック体で示したものは、音楽の『指導書』において「連絡」による指導や他教科での引用が明記されているものである。他教科の『指導書』において芸能科音楽との連絡を明記している場合は○を付し、内容的に見て筆者が関連ありと判断したものは括弧つきで示している。例えば、3年音楽の《天の岩屋》は、国語の「天の岩屋」、修身の「み国のはじめ」と相互に連絡し、国語の「参宮だより」と修身の「日本の子ども」は、音楽との連絡を明記されている教材であるとわかる。そして、5年国史の「高千穂の峯」は、『指導書』に直接連絡を明記されているものではないが、内容的には関連性があることを示している。「指

導内容」の欄には、唐沢（1980）による国民学校題材の分類カテゴリー、①超国家主義、②ミリタリズム、③教訓、④童謡・抒情詩・叙事詩、⑤自然・季節・年中行事、⑥生活・勤労、⑦学校、を記した⁶⁾。また、「指導目的」の欄には、『指導書』にある指導要旨の記述の該当部分をできるだけそのままの文言で掲載した。

教科間の関連性に関しては、これまでに小山（1996）、山本（1999）、本多（2005）が言及をしてきた。小山は、芸能科音楽が他教科との関連の中で愛国心を高める手段として重視されてきた点を明らかにしている。また、山本は『教科書』及び『指導書』の分析の中で、他教科他科目との関連項目における内容が貧弱で、ほとんど意味をなしていない点を指摘した（pp. 289-290）。本多（2005）は国語と音楽に絞って考察し、大きく2つの関連方法を明らかにしている。1つ目は「同じ主題、同じ学習内容を、国語の時間には散文（解説文や物語等）で学び、音楽の時間には歌う」（p. 199）というもので、2年の《軍かん》や3年の《稲刈》などである。2つ目は「『ヨミカタ』および『初等科国語』に載った韻文（詩）をそのまま歌詞とするか、あるいは作曲の都合上、若干の変更を施して曲をつけている」（p. 200）というもので、3年の《村祭》や6年の《われは海の子》がある。【表1】を見ると、本多のこの見解は国語以外の国民科の教科目に関しても見られる傾向であるといつてよいこと、また、教科間で思想・概念、イメージなどを補い合う関係も見いだされることがわかる。

【表1】からさらに、芸能科音楽と国民科各科目間の連絡が学年によりどう違うかという点を見てみよう。芸能科音楽の『指導書』に明記された国民科各科目との連絡、ならびに国民科各科目の『指導書』に明記された芸能科音楽との連絡の数を学年毎にまとめると【表2】のようになる。1年生では国民科から歌唱教材への連絡が多く見られる。2～3年生は国民科と芸能科音楽相互の連絡が密接になり、高学年になるにつれて双方向とも連絡は減少する。思想・概念の伝達手段としての歌唱教材が子どもの発達段階を顧慮して使われていたことが、ここから読み取れるだろう。低学

年においては、歌唱という感覚的で情動的な面をもつ経験を通して、つまり暗黙裏に刷り込むような方法を多用しながら思想や概念を子どもたちの中に形成していくことが意図されたのだろう。そして概念的把握や論理的思考力が発達する高学年においては、音楽の特性を生かして概念形成するという指導方法は減少する傾向が認められるといえよう。

3. 学習主題の重層性：3つの題材を中心に

学習主題が教科を横断するネットワークのなかで系統性をもって子どもたちに伝えられていた全体像が示唆されたところで、こうした指導内容から具体的な例をあげて検討を進めていきたい。

とくに歌詞を通して伝達されようとした思想や概念をめぐるのは、直接的な歌詞教育や問答形式を通じた公定イデオロギーの伝達がなされたという見方に対して、実際の授業の中ではそのような歌詞教育はあまりなされていない可能性も指摘されている（西島，2000，p. 131）。直接的に国家主義や軍国主義と結びつけた思想を伝達するという指導法が音楽授業で実際にどの程度とられていたかは、学習者の記憶や実際の指導案等との照合を通して今後検討していく必要があるだろう。いずれにせよ前節の検討からは、思想や概念はひとつひとつの教材指導の中で直接的に伝達されるだけでなく、他教科との関連の中でより重層的な意味形成の積み重ねという形がとられていた、ということが見えてくるのではないだろうか。

そこで、歌唱教材の歌詞の中に描出された具体的な題材として①農業と勤労，②楠木正成，③軍人，を取り上げて具体的に分析する。一般化された大きなカテゴリーとしての唐沢（前述）の分類とは異なり，これらは、『指導書』の指導要旨に見る具体的な学習主題であり⁷⁾，この主題がどのように子どもたちに伝えられ，またどのように国民科とのネットワークの中での蓄積と展開がなされようとしていたのか，具体的に明らかにしたい。

①農業と勤労

まず勤労全般に関わる歌について述べると、1年から6年の音楽の教科書に収録されている全120曲中11曲あると考えられる。【表4】に該当曲を『指導書』の指導要旨とともに列挙した。

勤労の歌は農業に関するものが多く、子どもたち自身の生活経験に近い作業から始まる。稲作にかかわるものを見てみよう。2年の《雨ふり》は、大人が田植えをし、子どもが手伝っている様子を歌ったものである。同じ時期に国語で「つゆ」を扱い、田植えについて学び、梅雨は鬱陶しい季節だが、農業では大切な時期であることに触れている。修身で2学期に読む「稲カリ」は、隣近所で仲良く助け合うことを、稲刈りを通して学ぶものである。3年1学期には、国語に出てくる韻文に曲をつけた《田植》を歌わせ、米が皇国の宝であること、田植えが農村行事の中で最も大切なものであること、そして皆で力を合わせて勤労すべきことを感得させる。その後、2学期に修身で「秋」を読み、もうすぐ実りの季節がやってきて、稲刈りが始まることを教える。国語の「稲刈」では、子ども目線の稲刈の様子が描かれており、長い間の労苦が結晶して、喜びに満ちて稲刈が行われることを学ばせ、音楽でもその喜びを伝える《稲刈》を歌う。5年では国語で「秋のおとづれ」を読み、二百十日の頃台風が来て荒れやすい季節になることを知り、その後《秋の歌》で、黄金色の穂波の風景を歌い、豊作を讃えるのである。類似する歌として《麦刈》(5年)があるが、これも勤労の美德を讃えた上で、「親子そろって麦刈りあげりゃ」(3番)と家族の絆の大切さを歌い、これと連絡して修身では「農夫作兵衛」で怠けず忠実に仕事に励む精神を説く。

農業に関する歌の特徴は、ひとつは勤労の賛美、そしてもうひとつは、季節や自然との強い結びつきである。梅雨や秋の情景、さらに《雨ふり》ではツバメ、《稲刈》では雁というように空を渡る鳥がたびたび歌詞に歌われることによって、叙情的風景を通して郷土への愛着を育むねらいが見える。さらに3つ目の特徴は、家族やコミュニティの絆の大切さと力をあ

わせて働くことの大切さの強調である。勤労の美德と家族ひいてはコミュニティの協働の大切さを歌うという特徴は、農業以外の勤労の歌にも見ることができる。3年の《子ども八百屋》は国語に掲載された韻文の一部に曲をつけたもので、父親が出征した後、子どもたちが協力して家業を手伝う様子を歌う。4年の《作業の歌》は「元気に」、「力をあはせて」、「心をひとつに」を歌詞に含む。

勤労と協働の尊重、コミュニティの一員としての自覚はたしかに子どもの成長にとって必要な内容である。だが、勤労に関する教材は6年生では《少年産業戦士》1曲である。これを考えると、季節と自然を叙情的に歌いながら身近な作業と家族の絆を自覚させ、コミュニティの一員としての自覚をもたせ、やがて国家の一員として勤労する姿へと言う道筋を垣間見ることできる。

②楠木正成

歴史上の人物に関する歌も多く見られる。まず、その準備段階として、1年で子どもたちに親しみがある昔噺『桃太郎』を国語と歌で取り上げ、英雄崇拝を喚起させる。そして、3年以降に《田道間守》(3年)や《三勇士》(3年)、《廣瀬中佐》(4年)、《橋中佐》(5年)、《小楠公》(5年)のような忠君愛国の精神を喚起させるもの、《野口英世》(4年)と《聖徳太子》(5年)の偉人崇拝を喚起するもの、《山田長政》(4年)の八紘一字の精神を昂揚させるものが出てくる。本論では、これらの中で当時「日本人の鑑」と称された楠木正成に関わる教育について取り上げる。

楠木に関する最初の教材は、3年修身の「多聞丸」である。これは、楠木の幼少時代にまつわる伝説をまとめたものである。主な学習内容は合理創造の精神を培うことであるが、『初等科修身一 教師用』には、「楠木正成については、その人となりを見れば知らぬ。初等科に於ける国史を参考として、教材取扱の前後適当に簡単な解説をしておくがよい」(p. 118)とあり、指導すべき主要事項にも「楠木正成の名前と簡単な人となり」

(同) とある。

4年で大人になった正成が金剛山に千早城を築き、様々な作戦で攻めに入った北条軍を大敗させるというエピソードに触れる(音楽二《千早城》、国語五「千早城」)。5年国史の教科書には、楠木にまつわる逸話に多くのページを割き、感動的に描かれる(『初等科国史 上』第六「吉野山」:〈一、建武のまつりごと〉〈二、大義の光〉)。〈一、建武のまつりごと〉では、4年の時に読み、歌った千早城のエピソードに再び触れ、〈二、大義の光〉は、同時期に歌う《小楠公》と対応している。小楠公は正成の長男正行のことで、この歌は正成と正行の桜井の別れ、正成の死後自刃しようとするが母親が諭して改心したこと、忠義を尽くして戦い抜いたことを称賛するものである。

そして、6年国語で『太平記』に基づいて書かれた「菊水の流れ」を読み、《小楠公》で歌ったエピソードに再び触れるのである。『初等科国語 八 教師用』の教材の趣旨には、「『忠孝一本』という日本独自の最高道徳が、楠木父子の実践によって遺憾なく発揮され具現されている」、「本教材は、修身教育に於ける最高の例話である」と記されている。さらに、6年国史では、三「国学」で徳川光圀が日本史編纂において楠木をはじめ吉野の忠臣の事績を明らかにし、楠木の忠誠をしるした碑を建てたとある(『初等科国史 下』pp. 69-70)。国学者頼山陽も、楠木の忠誠をたたえたという記述も見られる(同上 p. 73)。国史の教科書は、楠木父子が桜井の別れで交わした言葉を引用し、その上で「私たちは、一生けんめいに勉強して、正行のような、りっぱな臣民となり、天皇陛下の御ために、おつくし申しあげなければなりません」(同上 pp. 188-189)という一文で締めくくるのである。

このように楠木父子は、3年以降国民科各科目、芸能科音楽で何度も取り上げられており、文字通り皇国臣民の育成という目的に沿った題材であったと言える。感動や憧れを喚起するエピソードを読み、歴史的事実としても伝達され、さらにそのエピソードを繰り返し歌うことによって、情動

面からもより強固に子どもたちの記憶に残ることになったと想像される。

③軍人

兵隊ごっこというまさに当時の子どもにとっての身近な遊びに始まり、軍人を題材とする教材は数多く見られる。「国民最高の義務」(『ヨミカタ四教師用』p. 90)と言われた兵役を果たす軍人に関する題材を取り上げてみよう。関連する歌は【表5】に示すとおりである。

まず、低学年では兵隊さんへの幼い憧れを呼び起こしている。1年国語の「ヘイタイサン」には、その見開きのページの中に、子どもたちが黒板に兵隊の絵を描いている様子の挿絵があり、「ヘイタイサン ススメ ススメ チテ チテ タ トタ テテ タテ タ」という短い文が載っている。この「チテ チテ タ トテ…」は、「ドトタテチ」の階名で唱へられるラッパの旋律(『ヨミカタ一教師用』p. 86)であり、同書(p. 88)にはその楽譜も載っている。同書(p. 86)には、このラッパの旋律が一般の児童に広く歌われているとも書かれている。その後、国語で「兵タイゴッコ」を読み、ごっこ遊びの中で国防精神を養うことが意図されている。本文中では、歩兵、騎兵、砲兵、工兵、戦車兵、航空兵、輜重兵、看護婦に扮装して遊ぶ様子が書かれている。特に、看護婦は非常時における婦人の勤めを幼心に感じさせるもので、早い段階からジェンダー教育がなされていた点も興味深い。そして、最後に載っている韻文の一部を修正して曲をつけたのが、音楽の教科書に載っている《兵タイゴッコ》である。この曲は、機関銃の音「カタカタ」と、鉄砲の音「パンボン」の歌詞を4分音符=176という速いテンポに乗せてフォルテで表わしており、擬音語と曲想によって兵隊のイメージづくりをしようする意図が感じられる。

2年3学期に音楽で扱う《兵たいさん》は、行進曲を想起させる前奏と、《速歩行進》に近いテンポ感、そして歌詞に含まれる「とっとこ とっとこ」や「ぱっばか ぱっばか」という擬音語により、行進をする兵隊の姿を想像しやすくしている。同じ時期に国語で「にいさんの入営」を読み、

普段見ることのできない営門内の様子を、兄を見送りに来た弟の目線で学ぶ。「にいさんの入営」の続編である「にいさんの愛馬」(3年)は、軍馬を育てる兄からの近況を伝える手紙を読むものである。「にいさんの入営」と「にいさんの愛馬」は、兵隊に対して子どもの目線でのイメージ形成を図る「ヘイタイサン」や「兵タイゴッコ」とはやや異なり、兵隊の実際の生活を認識させようとする面も持っている。このような兵隊の生活や訓練を伝える教材は、他に国語の「観艦式」(3年)、「大演習」(3年)もある。そして3年生の最後には《三勇士》を歌う。これは国語の「三勇士」と対応しており、上海事変における戦場の様子、3人の工兵の壮烈な行為と精神を、感動を伴って子どもたちの魂に焼き付けることを目的としている。音楽は三部合唱で、工兵が戦死する内容にもかかわらずハ長調の勇ましい曲調で、伴奏も和音が力強く鳴り響く。『初等科国語二 教師用』(p.192)には、この題材を通して《海ゆかば》の一節「大君の辺にこそ死なめ、かへりみはせじ」の精神を自然に体得させるよう述べられており、死を怖れない精神を育成する意図が勇壮で明るい音楽的特徴の中に仕掛けられていたことが読み取れる。

3年生までは兵隊に対するイメージをつくり、関心や憧れを喚起し、基本的な心得をもたせる内容であるが、4年生以降はより現実的な内容になっていく。まず4年音楽で《入営》を歌い、入営が忠君を決意する重要な行事であることを理解する。3学期には《少年戦車兵》を歌う。当時、戦車隊拡充のために陸軍少年戦車兵学校が設置されており、若者にとって憧れの学校だった。《少年戦車兵》の次に歌う《無言のがいせん》は、1学期に修身で読んだ「靖国神社」と2学期に歌う《靖国神社》で学んだことを踏まえて取り扱われる。《無言のがいせん》は、おじさんが忠義を尽くして無言で帰り皆が無言でおじぎをしているという、子どもたちが自分の身に引きつけて想像しやすい状況を歌っている。5年で扱う《戦友》では、ニ短調で勇ましい伴奏に合わせて、戦友と共に戦い共に死ぬ誓いを歌う。この歌は直接的には国民科との連絡はないが、その後扱う《特別攻撃隊》

への布石となっており、国語の「十二月八日」、「不沈艦の最期」、修身の「特別攻撃隊」と関連づいていくことになる。

このように、低学年においてごっこ遊びの題材から兵隊に関心をもち、軽快なリズムやオノマトペの多用とともに歌いながらイメージをつくりはじめた子どもたちは、皇国民としての心持ちを暗黙のうちに育てはじめる。高学年になると軍人像はより現実的となり、子どもたちは自分の将来像と重ね合わせることもできたらう。国語や修身で取り上げる具体的なエピソードは、時には明るく勇壮に、時には荘厳に美しく、時には悲壮に感動的に歌う経験にバックアップされながら積み重なっていくことで、子どもたちの中に国家が求める精神を形成していくことを目指していたと言え、そこには各教科の特色が生かされた、横断的かつ縦断的なカリキュラムが構築されていたと言える。

おわりに

以上、国民学校期の芸能科音楽における歌唱教材に意図された学習主題およびその意図の実現方策の一側面を見てきた。芸能科音楽の歌唱教材の配列は、身近な生活や文化、自然、地理、行事、歴史に関する主題が重層的に積み重ねられ、愛国心育成の目的を果たそうとしていた。芸能科音楽と国民科間の連絡は、子どもの発達に合わせて、低学年では国民科で歌唱教材を多く関連づけ、高学年以降減少していた。また、教科を横断しての内容の連絡方法には、本多の指摘する同じ主題を教科間で扱う場合と、国語等で出た詞や韻文をそのまま音楽で歌う場合に加えて、知識や思想・概念を教科間で補い合う場合も見られた。教科をクロスしてみたことで、ひとつの主題が学校のカリキュラムの中で、各教科の特色を生しながら系統性をもって発展しつつ、暗黙のうちに子どもたちに皇国民としての心得を刷り込んでいくように構築されていることが明らかになった。

今後の課題としては、次の2つのことがあげられる。1つ目は、本稿で

分析した学習主題と音楽的な特徴との照らし合わせである。3節で述べたように、国民科各科目と芸能科音楽とはそれぞれの特徴を生かしながら、カリキュラム全体として大きな目的を達成することが意図されていたと見られる。歌唱教材がその中でどのように機能していたかを解明するためには、歌詞のみでなく音楽的な特徴の分析も不可欠である。2つ目には、国民学校期以前における唱歌と他教科との連絡を同様に精査し、この時期との連続性・非連続性を明らかにすることである。

子どもたちが健全に育つ上で必要とされる経験を、我々はどうのように学校教育の中に担保するのか。国家が志向する教育目標との関係性において、音楽科といういわば「主要教科でない」教科が歴史的に担って来た機能は実は重いものであり、その指導方略のもつ効果について注意深く検証することは、今日的な教育問題を考える上でも重要なことなのではないだろうか。国家意識のありようと学校の音楽教育のありようは無縁ではなく、むしろ我々はどの時代にあってもここに注視する必要がある。そうした意味で、国民学校期の音楽教育のとした指導方略について、今後は個々の学校での指導実態についての実践研究、学習者の側にたつ研究なども含めて、多角的な実証研究がさらに必要である。

注

- 1) このとき小学校令（明治19年公布、同23年改正）が改正され、義務教育年限の延長（初等科6年、高等科2年の計8年）など制度上の改革と教育内容の改革がなされた。それまでの小学校令では小学校は尋常小学校・高等小学校の2種とされ、修業年限が3年または4年の尋常小学校が義務教育であった。国民学校令の義務就学期間適用は昭和19年からとされ、実際には実施されなかった。
- 2) 国民学校初等科の教科は次のように大きな4つの教科およびそれぞれの中に含まれる科目（括弧内）に再編された。「国民科（修身・国語・国史・地理）」「理数科（算数・理科）」「体錬科（体操・武道）」「芸能科（音楽・習字・図画・工作・裁縫）」。芸能科誕生までの審議過程を公文書類から検討した権藤（1999）は、教科統合は画期的ではあったものの、官主導のそれは「全体主義的な教育目標のもとで、学習者の主体的な問題はまったく考慮され」ておらず「教科のもとにお

かれたそれぞれの科目は相互の関連性を検討されないまま、カテゴリー化されてしまった」(pp. 261-262)と指摘している。学習者の立場に立った経験の統合は顧慮されなかった可能性が高いことがうかがわれるが、実際芸能科というカテゴリーの中で音楽科が他の教科目(習字・図画・工作・裁縫)と有機的な統合や連携を意図された形跡はあまりみられない。皇国民育成の目標のもとに概念的に「芸術技能を修練して情操を醇化する」(「国民学校令施行規則」と括られたものの、子どもたちの創造性や身体技能を育む観点から芸能科の器に相応しい教育内容の再編や統合あるいは連携はほとんどなされなかったのである。本研究においても音楽科における題材と他教科との関連性を検証してみるとそのほとんどが国民科との連携であり、国家的な教育目標に沿った概念的な連携という色彩が濃かったことがうかがわれる。

- 3) 河口(1991)は国民学校芸能科音楽について、大正期からの連続性の中で芸術性推進の理念を有しながら、実際の内容は軍国主義思想に組み込まれ手段化されたこと、また、教科内容拡充と方法論的改革によって戦後音楽教育の礎を築きながらも、具体的なレベルは「皇国民の基礎的錬成」という目標に決定づけられていたことを指摘している(河口, 1991, p. 269)。
- 4) 国民学校の音楽教育実践に関する実証的な研究として、本多佐保美, 西島央, 藤井康之, 筆者らが共同で継続的におこなっているものがある。文書資料(各学校所蔵文書を含む)と当時の児童の記憶(アンケートとインタビュー)を通して出来るかぎり当時の音楽授業実践の具体に迫り、国民学校芸能科音楽の再評価を目指すものである。この継続的活動を通して、1999年に東京女子校等師範学校附属国民学校、以後高遠国民学校、誠之国民学校、飯田市ならびに上市市の国民学校を対象とした研究成果の発表がなされている。
- 5) 昭和7(1932)年に文部省が発行した『新訂尋常小学唱歌』は、それまで使用されていた『尋常小学唱歌』(明治44年~大正3年)の掲載曲を一部変更して発行された。今も『学習指導要領』上の共通教材で当時の学習者にとっての愛唱歌としてあげられることの多い《牧場の朝》が登場したのはこの教科書からである。《牧場の朝》に代表されるように、この改訂では直接的な軍国主義的や国家主義的な色彩が強まったというわけではなかった。
- 6) 唱歌教材の指導内容には、学習のテーマとして扱っている直接的な事柄と、それを通して目指している理念が含まれるため、複数のカテゴリーに跨る場合も多く見られ、厳密な分類は難しい。唐沢の分類は、主たる内容を捉えた分かりやすい方法のひとつである。
- 7) 主題に基づいて教材をカテゴライズする場合、注6でも指摘した通り、表面的な内容と、背後で目指されている目的が混ざっている複雑なものもあるため、本稿では『指導書』の「指導要旨」を参照し、単純な分類を試みた。

引用文献

- 今川恭子, 勝谷祥子, 国府華子, 幸山良子, 中里南子, 西島央, 藤井康之, 本多佐保美, 村上康子 (2002) 「共同研究 国民学校芸能科音楽の研究 III 高遠国民学校の音・音楽」東京芸術大学音楽教育研究室編『音楽教育研究ジャーナル』第18号, pp. 1-44
- 奥中康人 (2008) 『国家と音楽—伊澤修二がめざした日本近代』春秋社
- 唐沢富太郎 (1980) 『教科書の歴史』創文社, pp. 532-534
- 河口道朗 (1991) 『音楽教育の理論と歴史』音楽之友社
- 小山真紀 (1996) 「合科学習・教科関連と唱歌科(芸能科音楽)—戦前におけるその位置づけと影響」東京芸術大学音楽教育研究室編『音楽教育研究ジャーナル』第4号, pp. 13-28
- 山東功 (2008) 『唱歌と国語—明治近代化の装置』講談社
- 西島央 (1995) 「学校音楽の国民統合機能 —ナショナル・アイデンティティとしての『カントリー意識』の確立を中心として—」『東京大学教育学部紀要』第34巻 (1994年), pp. 173-184
- 西島央 (2000) 「唱歌教育の受容・消費と国民意識に関する社会学的考察: 長野県高遠町における聞き取り調査をもとに」『東京大学大学院教育学研究科紀要』第39巻 (1999年), pp. 125-136
- 本多佐保美 (1999a) 「芸能科音楽の指導実践 —「総合授業」の授業細目の検討—」浜野政雄監修『音楽教育の研究 —理論と実践の統一をめざして—』音楽之友社, pp. 296-307
- 本多佐保美, 藤井康之, 今川恭子 (1999b) 「東京女子高等師範学校附属国民学校の音楽教育 - 文献資料と当時の子どもたちへのインタビューに基づく音楽授業—」音楽教育史学会『音楽教育史研究』第2号, pp. 37-47
- 本多佐保美編 (2004) 『音楽教育史研究における制度・教師・学習者の関係性の探求 - 国民学校時代の音楽教育体験者の聞き取り調査に基づいて—』(2004) 平成13~15年度科学研究費補助金研究成果報告書
- 本多佐保美 (2005) 「芸能科音楽の問題性 —教科書・教師用書の検討をとおして—」『音楽教育史論叢 第II巻 音楽と近代教育』開成出版, pp. 196-210
- 本多佐保美, 西島央, 永山香織, 大沼寛子, 藤井康之 (2010) 「昭和初期小学校音楽科教育の形成過程に関する研究 —長野県飯田市の事例をとおして見る地域と学校—」『千葉大学教育学部研究紀要』第58巻, pp. 127-135
- 山本文茂 (1999) 「芸能科音楽教材の特質 —教科書・教師用指導書の分析を通して—」『音楽教育の研究 —理論と実践の統一をめざして—』音楽之友社, pp. 278-295
- 渡辺裕 (2010) 『歌う国民 —唱歌, 校歌, うたごえ—』中央公論新社

教科書類等史料一覧（すべて文部省著作兼発行）

芸能科音楽

〈教科書〉

- （第1学年用）『ウタノホン 上』昭和16年2月27日発行 ※1
（第2学年用）『ウタノホン 下』昭和16年3月7日発行
（第3学年用）『初等科音楽 一』昭和17年2月24日発行
（第4学年用）『初等科音楽 二』昭和17年2月24日発行
（第5学年用）『初等科音楽 三』昭和17年12月31日発行
（第6学年用）『初等科音楽 四』昭和17年12月31日発行

〈教師用指導書〉

- （第1学年用）『ウタノホン 上 教師用』昭和16年6月10日発行
（第2学年用）『ウタノホン 下 教師用』昭和16年6月10日発行
（第3学年用）『初等科音楽 一 教師用』昭和17年4月30日発行
（第4学年用）『初等科音楽 二 教師用』昭和17年4月30日発行
（第5学年用）『初等科音楽 三 教師用』昭和18年5月15日発行
（第6学年用）『初等科音楽 四 教師用』昭和18年5月15日発行

国民科国語

〈教科書〉

- （第1学年用）『ヨミカタ 一』昭和16年2月10日発行
『ヨミカタ 二』昭和16年8月11日発行
（第2学年用）『ヨミカタ 三』昭和16年3月7日発行
『ヨミカタ 四』昭和16年8月4日発行 ※1
（第3学年用）『初等科国語 一』昭和17年2月16日発行 ※1
『初等科国語 二』昭和17年7月10日発行
（第4学年用）『初等科国語 三』昭和17年2月16日発行
『初等科国語 四』昭和17年7月7日発行
（第5学年用）『初等科国語 五』昭和17年12月21日発行 ※1
『初等科国語 六』昭和18年7月12日発行
（第6学年用）『初等科国語 七』昭和17年12月21日発行 ※1
『初等科国語 八』昭和18年7月17日発行

〈教師用指導書〉

- （第1学年用）『ヨミカタ 一 教師用』昭和16年5月2日発行
『ヨミカタ 二 教師用』昭和16年9月10日発行
（第2学年用）『ヨミカタ 三 教師用』昭和16年5月5日発行
『ヨミカタ 四 教師用』昭和16年9月11日発行
（第3学年用）『初等科国語 一 教師用』昭和17年4月2日発行

- 『初等科国語 二 教師用』昭和17年8月10日発行
(第4学年用)『初等科国語 三 教師用』昭和17年4月9日発行
『初等科国語 四 教師用』昭和17年8月11日発行
(第5学年用)『初等科国語 五 教師用』昭和18年4月14日発行
『初等科国語 六 教師用』昭和18年8月31日発行
(第6学年用)『初等科国語 七 教師用』昭和18年4月15日発行
『初等科国語 八 教師用』昭和18年8月31日発行

国民科修身

〈教科書〉

- (第1学年用)『ヨイコドモ 上』昭和16年1月31日発行
(第2学年用)『ヨイコドモ 下』昭和16年2月7日発行
(第3学年用)『初等科修身 一』昭和17年2月21日発行
(第4学年用)『初等科修身 二』昭和17年2月19日発行
(第5学年用)『初等科修身 三』昭和18年1月21日発行
(第6学年用)『初等科修身 四』昭和18年1月15日発行

〈教師用指導書〉

- (第1学年用)『ヨイコドモ 上 教師用』昭和16年5月5日発行
(第2学年用)『ヨイコドモ 下 教師用』昭和16年5月8日発行
(第3学年用)『初等科修身 一 教師用』昭和17年4月18日発行
(第4学年用)『初等科修身 二 教師用』昭和17年4月27日発行
(第5学年用)『初等科修身 三 教師用』昭和18年6月23日発行
(第6学年用)『初等科修身 四 教師用』昭和18年6月26日発行

国民科国史

〈教科書〉

- (第5学年用)『初等科国史 上』昭和18年2月17日発行
(第6学年用)『初等科国史 下』昭和18年3月3日発行

〈教師用指導書〉

- (第5学年用)『初等科国史 上 教師用』昭和18年12月27日発行
(第6学年用)『初等科国史 下 教師用』昭和19年5月29日発行 ※2

※印以外は「国会図書館 近代デジタルライブラリー」のウェブサイトより、
(URL: <http://kindai.ndl.go.jp/>)

※1 『複製 国定教科書(国民学校期)』ほるぷ出版(1982)を参照した。

※2 翻刻版を参照した。

【表1】教科関連一覧表
1年

ウタノホン上	指導内容	指導目的	ヨミカタ一・二	ヨイコドモ上	他学年, その他
キミガヨ			2-20 日本のはるし〇		
1. ガクカウ	学校	学校生活の楽しさを感じさせる	1-1 ラジオ体操〇	1 ガクカウ〇	
2. ヒノマル	超国家主義	国旗を讃仰する心を喚起して、国民的情操を昂揚する	1-6 ヒノマルノハタ〇 2-20 日本のはるし〇	3 テンチャウセツ〇	『よみかた』4-22「支那の子ども」*1 『初等科修身』1-16「日の丸の旗」〇*2
3. ユフヤケコヤケ	童謡・抒情詩, 叙事詩	素直な童心を培い、国民的情操を醇化する	1-13 ユフヤケ〇		
4. エンソク	学校	明朗快活の精神を養う			『ヨイコドモ』下-12「エンソク」
5. カクレンボ	童謡・抒情詩, 叙事詩	純真な童心を培い、国民的情操を醇化に資する	1-23 カクレンボ〇		
6. ホタルコイ	自然・季節・年中行事	純真な童心を培い、国民的情操を醇化する	1-27 ホタル〇		
7. ウミ	自然・季節・年中行事	海事思想を鼓吹し、明朗闊達な精神を養う	2-1 山ノ上〇		
8. オウマ	童謡・抒情詩, 叙事詩	快活純美の情を養い、動物愛護の精神を喚起する			『初等科国語』1-13「にいさんの愛馬」〇
9. オ月サマ	童謡・抒情詩, 叙事詩	快活純美の情を養う	1-42 オ月サマ〇		
10. モモトラウ	超国家主義	英雄崇拜の情を鼓吹し、国民精神を昂揚する	1-43 モモトラウ〇	9 ツヨイコ〇	
11. タネマキ	生活・勤労	勤労を愛好する精神を養う			
12. ハトポッポ	童謡・抒情詩, 叙事詩	素直な童心を培い、動物愛護の精神を涵養する			

13. コモリウタ	生活・勤労	素直な童心を培い、国民的情操を醇化する	2-10 コモリウタ○		
14. オ人ギャウ	童謡・抒情詩、叙事詩	純真な童心を培い、国民的情操を醇化に資する	2-11 オイシャサマ○		
15. オ正月	自然・季節・年中行事	純真な童心を培い、快活純美の情を養う	2-15 オ正月○	15 シンネン○	
16. デンシャゴッコ	童謡・抒情詩、叙事詩	純真な童心を培い、快活の情を養う	2-12 デンシャゴッコ○		
17. カラス	童謡・抒情詩、叙事詩	純真な童心を養い、快活明朗の精神を養う			
18. 兵タイゴッコ	ミタリズム	勇壮活発の精神を養う	2-16 兵タイゴッコ○ ^{*3}		
19. ヒカウキ	ミタリズム	明朗快活の精神を養い、航空思想の涵養に資する	1-19 ヒカウキ		
20. ウグヒス	自然・季節・年中行事	快活純美の情を養う	2-24 ウグヒス○		

2年

うたのほん下	指導内容	指導目的	よみかた三・四	ヨイドモ下	他学年, その他
1. 春が来た	自然・季節・年中行事	快活純美の情を養う	3-1 春○		
2. さくら さくら	自然・季節・年中行事	快活純美の情を養い、国民的情操の醇化に資する	3-1 春○		
3. 国引き	超国家主義	八絃一字の精神を涵養する	3-3 国引き○		
4. 軍かん	ミタリズム	海国民の意気を体得させ、国民精神を昂揚する	3-9 軍かん○ 3-10 お話○ 4-3 海軍のにいさん○		
5. 雨ふり	生活・勤労	勤労を尚ぶ心を養い、職域奉公の念を培う	3-15 つゆ○	6 ヤナギニ蛙○	
6. 花火	自然・季節・年中行事	快活純美の情を養う	3-17 花火○		

7. たなばたさま	自然・季節・年中行事	優雅の情を養い、国民的情操の醇化に資する				(『ヨミカタ』1-28「タナバタ」)
8. うさぎ	自然・季節・年中行事	快活純美の情を養い、国民的情操の醇化に資する	3-22 うさぎとたぬき○ ^{*4}			
9. 長い道	童謡・抒情詩、叙事詩	優雅の情を養い、国民的情操の醇化に資する	3-24 長い道○			
10. 朝の歌	生活・勤労	快活純美の情を養い、清潔勤勉の習慣の養成に資する				
11. 富士の山	超国家主義	敬虔の念を養い、国民精神の昂揚に資する	4-1 富士山○			
12. 菊の花	超国家主義	快活純美の情を養い、国民的情操の醇化に資する	4-5 菊の花○			
13. かけっこ	学校	勇壮活発の精神を養う	4-6 かけっこ○			
14. たきぎひろひ	生活・勤労	快活純美の情を養い、勤労を楽しむ心を培う				
15. おもちゃの戦車	ミリタリズム	勇壮活発の精神を養い、兵器に対する興味を喚起する	4-15 にいさんの入営○			
16. 羽根つき	自然・季節・年中行事	快活純美、戸外運動に親しむ心を培う	4-13 新年○ 4-18 たこあげ			
17. 兵たいさん	ミリタリズム	勇壮活発の精神を養い、且つ軍事思想を鼓吹して忠君愛国の念を培う	4-15 にいさんの入営	(10 兵タイサンへ)		(『初等科国語』1-13「にいさんの愛馬」)
18. ひな祭	自然・季節・年中行事	優雅の情を養い、国民的情操の醇化に資する	4-23 おひな様○			
19. 日本	超国家主義	国民精神を昂揚し、愛国の熱情を養う		19 日本ノ国○		

20. 羽衣	童謡・抒情詩, 叙事詩	優雅の情を養い, 国民的情操の醇 化に資する	4-25 羽衣			
--------	----------------	------------------------------	---------	--	--	--

3年

初等科音楽 一	指導内容	指導目的	初等科国語 一・二	初等科修身 一	初等科国史 上・下	他学年, その他
1. 春の小川	自然・季節・ 年中行事	快活純美の 情を養う	1-3 光は空から 1-4 支那の春 1-5 おたまじ ゃくし 2-22 春の雨○	2 春○		
2. 鯉のぼり	自然・季節・ 年中行事	明朗快活な 男性的意気 を養い、国民 的情操の醇 化に資する		3 日本の子ど も○		『よみかた』3 -5「鯉のぼ り」
3. 天の岩屋	超国家主義	国民的情操の 昂揚に資する	1-1 天の岩屋○ 1-2 参宮だよ り○	1 米国のはじ め○ 3 日本の子ど も○	(1-1 高千穂 の峯)	
4. 山の歌	自然・季節・ 年中行事	明朗快活の 精神を養い、 自然に親しむ 心を喚起する				
5. 田植	生活・勤労	快活明朗の 精神を養い、 勤労を尚ぶ 心を喚起する	1-12 田植			『初等科国 語』3-7「苗 代のころ」○
6. なはとび	童謡・抒情 詩, 叙事詩	快活純美の 精神を養い、 運動に親しむ 心を喚起する				
7. 子ども八百屋	生活・勤労	明朗快活の 精神を養い、 銃後奉公の 心構えを喚 起する	1-15 子ど も八百屋○			『初等科国語』 5-4「戦地の 父から」○
8. 軍犬利根	ミリタリズム	勇壮活発の 精神を養い、 動物愛護の 心を喚起する	1-22 軍犬利 根○			
9. 秋	自然・季節・ 年中行事	快活純美の 情を養う	1-23 秋○	10 秋○		『初等科国語』 5-17「秋のお どづれ」○

10. 稲刈	生活・勤労	明朗快活の精神を養い、勤労に親しむ心を喚起する	2-2 稲刈○	10 秋○		
11. 村祭	自然・季節・年中行事	快活純美の情を養い、敬神の念を喚起して、国民精神の昂揚に資する	2-3 祭に招く 2-4 村祭○	10 秋○		
12. 野菊	自然・季節・年中行事	優美の情を養い、秋の自然に親しむ心を喚起する				
13. 田道間守	超国家主義	忠君の至情を養い、国民的精神の醇化に資する	2-5 田道間守○			
14. 潜水艦	ミリタリズム	勇壮活発の精神を養い、海軍思想を涵養する	2-7 潜水艦○			
15. 餅つき	生活・勤労	明朗快活の情を養い、国民的情操の醇化に資する				
16. 軍旗	ミリタリズム	軍事思想を養い、忠君愛国の至情を涵養する	2-14 軍旗○	16日の丸の旗○		
17. 手まり歌	童謡・抒情詩、叙事詩	快活純美の情を養い、国民的情操の醇化に資する				
18. 雪合戦	ミリタリズム	勇壮活発の精神を養い、冬の戸外運動に親しむ心を喚起する	2-16 雪合戦○	17 冬○		
19. 梅の花	自然・季節・年中行事	快活純美の情を養い、詩的情操を陶冶する	2-17 菅原道真○ 2-18 梅○			

20. 三勇士	ミリタリズム	勇壮活発の精神を養い、忠君愛国の至情を涵養し、国民精神の昂揚に資する	2-21 三勇士○	19 負けじだましひ○	15-1 満州事変○	
---------	--------	------------------------------------	-----------	-------------	------------	--

4年

初等科音楽 二	指導内容	指導目的	初等科国語 三・四	初等科修身 二	初等科国史 上・下	他学年, その他
1. 春の海	自然・季節・ 年中行事	快活純美の 情を養う	3-1 朝の海へ○ 3-2 潮干狩			
2. 作業の歌	生活・勤労	明朗快活の 精神を養い、 勤労愛好の 心を涵養する				
3. 若葉	自然・季節・ 年中行事	快活純美の 情を養う	3-7 苗代の頃			
4. 機械	生活・勤労	機械工業に対 する関心を深 め、明朗快活 の精神を養う	3-10 機械○			
5. 千早城	超国家主義	勇壮活発の 精神を養い、 忠勇義烈の 心を喚起して、 国民精神の 昂揚に資する	3-12 千早城○		(6-1 建武の まつりごと)	
6. 野口英世	教訓	劉苦勉勵の 一生を偲ば せて、偉人崇 拝の念を養う		7 野口英世○		
7. 水泳の歌	生活・勤労	明朗快活の精 神を養い、水 泳に対する興 味を喚起する	3-15 夏○ 3-18 とびこみ 台○	8 日本は海の 国○		『初等科国 語』5-1 5 「遠泳」○
8. 山田長政	超国家主義	海外発展の 気性を養い、 八紘一字の 大精神を昂 揚する		11 山田長政○	(9-2 日本町)	

9. 青い空	自然・季節・年中行事	快活純美の情を養い、秋の自然の美に親しむ心を喚起する	3-23 秋の空○	10 秋から冬へ○		
10. 船は帆船よ	超国家主義	海外発展の意気を養い、八紘一宇の大精神を昂揚する	4-1 船は帆船よ○	11 山田長政○	(9-2 日本町)	
11. 靖国神社	超国家主義	護国の英霊に対する感謝の心を喚起し、忠君愛国の精神を昂揚する	3-5 靖国神社○	3 靖国神社○	12-1 明治の維新○ (12-3 富国強兵)	
12. 村の鍛冶屋	生活・勤労	明朗快活の精神を養い、勤労愛好の心を喚起する				
13. ひよどり越	ミタリズム	勇壮活発の精神を養い、敢為断行の気性を涵養する	4-7 ひよどり越○			
14. 入營	ミタリズム	勇壮活発の精神を養い、忠君愛国の情を涵養する				
15. グライダー	ミタリズム	勇壮活発の精神を養い、航空思想を涵養する	4-10 グライダー「日本號」○			
16. きたへる足	生活・勤労	明朗快活の精神を養い、歩くことに対する興味を喚起する				
17. かぞへ歌	教訓	躰に関する自覚を促し、快活準備の情を養う				
18. 廣瀬中佐	ミタリズム	忠君愛国の精神を養い、国民精神の昂揚に資する	4-4 大連から 4-17 廣瀬中佐○		13-2 日露戦役○	

19. 少年戦車兵	ミリタリズム	勇壮活発の精神を養い、軍事思想を鼓吹して国民精神を涵養する				
20. 無言のがいせん	ミリタリズム	英霊に感謝の心を捧げ、国民的情操の醇化に資する		3 靖国神社		『初等科音楽』4-11《靖国神社》

5年

初等科音楽 三	指導内容	指導目的	初等科国語 五・六	初等科修身 三	初等科国史 上・下	他学年, その他
1. 朝禮の歌	超国家主義	快活純美の情を養い、心身練磨の覚悟を新たにする				
2. 大八洲	超国家主義	国民精神の昂揚に資する	5-1 大八洲○	1 大日本	1-1 高千穂の峯○	
3. 忠霊塔	超国家主義	護国の英霊に対する感謝の念を喚起し、忠君愛国の精神を養う	6-3 姿なき入城○			
4. 赤道越えて	超国家主義	海外雄飛の精神を養う	5-4 戦地の父から			
5. 麦刈	生活・勤労	快活の情を養い、勤労を喜ぶ心を喚起する	5 農夫作兵衛○			
6. 海	自然・季節・年中行事	快活純美の情を養う	5-15 速泳○			
7. 戦友	ミリタリズム	盡忠報国の精神を養う	6-2 水平の母○ 6-3 姿なき入城○		15-2 戦友○	
8. 揚子江	超国家主義	遠大雄渾の精神を養う				

9. 大東亞	超国家主義	大東亜に於ける盟主日本の使命を自覚させ、共栄団確立の覚悟を促す			15-2 戦友○	
10. 牧場の朝	生活・勤労	快活の情を養う				
11. 聖徳太子	超国家主義	聖徳太子の御英遇と御成徳を讃仰し奉る心を喚起し、国民精神の昂揚に資する			2-2 法隆寺○	『初等科国語』2-10「聖徳太子」
12. 橋中佐	ミリタリズム	忠君愛国の精神を養う		9 軍神のおもかげ○	13-2 日露戦役○	
13. 秋の歌	自然・季節・年中行事	農夫に対する感謝の心を喚起する	5-17 秋のおとづれ 6-8 初冬二題○			
14. 捕鯨船	生活・勤労	勇壮活発の精神を養い、海洋漁業に対する関心を深める				
15. 特別攻撃隊	ミリタリズム	忠君義烈に感激させ、忠君愛国の精神を養う	6-9 十二月八日(6-10 不沈艦の最期)	15 特別攻撃隊○	15-2 戦友○	
16. 母の歌	教訓	やさしく強く崇高な母の愛に対する感謝の心を深め、以って国民的情操の醇化に資する	6-2 水平の母			
17. 冬景色	自然・季節・年中行事	自然美に対する関心を深め、快活純美の情を養う	6-8 初冬二題○			
18. 小楠公	超国家主義	盡忠報国の精神を養う国民的情操の醇化に資する			6 吉野山(10-3 国學)(15-3 大御代の御榮え)	『初等科国語』8-12「菊水の流れ」○
19. 白衣の勤め	ミリタリズム	博愛の精神を養う	(6-19 病院船)			

20. 桃山	超国家主義	大東亜共栄圏確立の覚悟を新たにする			8-2 聚楽第○ (8-3 扇面の地圖)	
--------	-------	-------------------	--	--	-------------------------	--

6年

初等科音楽四	指導内容	指導目的	初等科国語七・八	初等科修身四	初等科国史上・下	他学年教科書
1. 敷島の	超国家主義	国民精神の昂揚に資する				
2. おぼろ月夜	自然・季節・年中行事	自然美に親しむ心を喚起し、優雅の情を養う				
3. 姉	童謡・抒情詩、叙事詩	兄弟の愛情を濃やかにし、優雅の情を養う	7-7 姉○			
4. 日本海海戦	ミタリズム	わが海軍将士の奮戦を偲ばせ、志気を鼓舞するとともに忠君愛国の精神を養う	7-8 日本海海戦○		13-2 日露戦役○	
5. 晴れ間	自然・季節・年中行事	自然美に親しむ心を喚起し、快活純美の情を養う	7-10 晴れ間○			
6. 四季の雨	自然・季節・年中行事	自然美に対する親しみの心を喚起し、優雅の情を養う				(『初等科国語』2-2 2「春の雨」)
7. われは海の子	超国家主義	志気を鼓舞し、忠君愛国の精神を養う	7-15 われは海の子○			
8. 満州のひろ野	超国家主義	大陸に対する関心を深め、大陸進出の気宇を養う				(『初等科国語』5 附録「大地を開く」)
9. 肇国の歌	超国家主義	肇国の精神を体得させ、国民精神の昂揚に資する			1 神国 1-1 高千穂の峯○ 1-2 樺原の宮居○	

10. 體練の歌	超国家主義	大いに志気を鼓舞し、身心練磨に対する国民的自覚を促す				
11. 落下傘部隊	ミリタリズム	勇壮果敢の精神を養うとともに、落下傘部隊に対する関心を深める				
12. 御民われ	超国家主義	皇国臣民としての自覚を促し、国民精神の昂揚に資する	7-2I 御民われ		3-1 都大路と国分寺○	
13. 渡り鳥	自然・季節・年中行事	渡り鳥に対する関心を深め、人生行路に於ける団結、忍耐等の必要を感得させる				
14. 船出	生活・勤労	士気を鼓舞し、海国少年の光栄と責任とを自覚させる				
15. 鎌倉	童謡・抒情詩、叙事詩	鎌倉の史跡に対する関心を深め、国民精神の涵養に資する	(8-10 鎌倉)		5-2 富士の巻狩○	
16. 少年産業戦士	超国家主義	勤労に対する親しみの心を喚起し、国民的自覚を促す				
17. スキー	生活・勤労	士気を鼓舞し、冬の戸外運動に対する興味を喚起するとともに、明朗快活の精神を養う				
18. 水師營の會見	ミリタリズム	武士道的精神を体得させる			13-2 日露戦役○	『初等科国語』6-12 「水師營」

19. 早春	自然・季節・年中行事	自然美に親しむ心を喚起し、優雅の情を養う	8-18 梅が香 8-19 雪国の春			
20. 日本刀	超国家主義	武士道的精神を体得させ、国民精神の昂揚に資する		16 日本刀		

※1 《ヒノマル》の詩が掲載されている。

※2 教師用 p. 141 取扱いの要領において、初等科修身 1-16 「日の丸の旗」が《ヒノマル》の記憶を容易に蘇らせ得るとある。

※3 《兵タイゴッコ》は、歌詞の説明にヨミカタの韻文を一部修正して採用したものとある。(p. 131)

※4 《うさぎ》の歌詞の解説には、「『よみかた、三』に掲載されて居る」とある(p. 85)。

【表2】 芸能科音楽と国民科間の連絡が見られる曲数

学年	音楽→国民科	国民科→音楽	単位は曲
1	5/21 (君が代含む)	16/21	
2	15/20	15/20	
3	14/20	15/20	
4	14/20	12/20	
5	9/20	13/20	
6	8/20	9/20	

【表3】 カテゴリー別に見た教科間連絡のある歌唱教材の割合

指導内容	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	割合
①超国家主義	2	4	2	4	6	4	29 曲中 22 曲	76%
②ミリタリズム	2	3	5	4	3	2	23 曲中 19 曲	83%
③教訓	0	0	0	1	1	0	3 曲中 2 曲	66%
④童謡・抒情詩・叙事詩	6	2	0	0	0	2	14 曲中 10 曲	71%
⑤自然・季節・年中行事	4	6	5	3	3	2	29 曲中 23 曲	79%
⑥生活・勤労	1	1	3	2	1	0	19 曲中 8 曲	42%

⑦学校	1	1	0	0	0	0	3 曲中 2 曲	66%
-----	---	---	---	---	---	---	----------	-----

【表 4】 勤労関連曲一覧

学年	曲名	指導要旨（引用文献は教科書類等史料一覧参照）
1	タネマキ	種まきの歌曲を歌はせ、人間の勤労が自然の恩恵に浴して成就する天理を暗示し、勤労を愛好する精神を養ふ。
2	雨ふり	雨降りの日に於ける田植の様子を歌はせて、勤労を尚ぶ心を養ひ、職域奉公の念を培ふ。
2	たきぎひろひ	たきぎひろひの歌を歌はせて、快活純美の情を養ひ、勤労を楽しむ心を培ふ。
3	田植	国民生活に関係の深い田植の歌を歌はせて、快活明朗の精神を養ひ、勤労を尚ぶ心を喚起する。
3	子ども八百屋	元気のない子ども八百屋の歌を歌はせて、明朗快活の精神を養ひ、銃後奉公の心構へを喚起する。
3	稲刈	季節に関連して稲刈の歌を歌はせて、明朗快活の精神を養ひ、勤労に親しむ心を喚起する。
4	作業の歌	勤労作業の歌を歌はせて、明朗快活の精神を養ひ、勤労愛好の心を涵養する。
4	村の鍛冶屋	元気のない村の鍛冶屋の歌を歌はせて、明朗快活の精神を養ひ、勤労を愛好する心を喚起する。
5	麦刈	楽しい麦刈の歌を歌はせて、快活の情を養ひ、勤労を喜ぶ心を喚起する。
5	秋の歌	みよりの秋を歌ったこの歌曲を授けて、農夫に対する感謝の心を喚起し、併せてニ長調三部合唱曲の歌唱に習熟させる。
6	少年産業戦士	勇ましい少年産業戦士の歌を授けて、勤労に対する親しみの心を喚起し、国民的自覚を促すとともに、変ロ長調三部合唱曲の歌唱に習熟させる。

【表 5】 軍人を題材とする歌唱曲一覧

学年	曲名	指導要旨
1	兵タイゴッコ	勇ましい兵隊ごっこの歌曲を歌はせて、勇壮活発の精神を養ふ。

2	兵たいさん	勇ましい兵たいさんの歌を歌はせて、勇壮活発の精神を養ひ、且つ軍事思想を鼓吹して忠君愛国の念を培ふ。
3	三勇士	壮烈な三勇士の歌を歌はせて、勇壮活発の精神を養ひ、忠君愛国の至情を涵養して、国民精神の昂揚に資すると共に、三部合唱曲の歌唱に習熟させる。
4	入営	勇ましい入営の歌を歌はせて、勇壮活発の精神を養ひ、忠君愛国の情を涵養すると共に、三部合唱曲の歌唱に習熟させる。
4	少年戦車兵	勇ましい少年戦車兵の歌を歌はせて、勇壮活発の精神を養ひ、軍事思想を鼓吹して国民精神を涵養し、併せて三部臨床曲の歌唱に習熟させる。
4	無言のがいせん	護国の英霊を迎える歌を歌はせて、英霊に感謝の心を捧げ、国民的情操の醇化に資する。
5	戦友	純真な戦友愛を歌ったこの歌曲を授けて、盡忠報国の精神を養ふ。
5	特別攻撃隊	特別攻撃隊の歌を歌はせて、その忠勇義烈に感激させ、忠君愛国の精神を養ふ。
5	白衣の勤め	本歌曲を歌はせて、従軍看護婦のけなげな働きに感激させ、博愛の精神を養ふ。
6	落下傘部隊	勇ましい落下傘部隊の歌を授けて、勇壮果敢の精神を養ふとともに、落下傘部隊に対する関心を深める。